

桜の聖母短期大学
親と子の広場

小さなクラスの

さくらっこだより

火・金曜日

2016年8・9月号



8月の小さなさくらっことはお休みをいただきましたが、皆様いかがおすごしでしたでしょうか。7・8月は、毎回プールで遊んだり、土曜日のさくらっことでは、夏のおやつクッキングが行われ、夏ならではの体験ができました。外の気温の高さと室内との気温差で体調を崩しやすい時期でもありましたが、上手に日陰を利用し、水分を取りながら夏を楽しむことができました。

短大の2年生は、8月末に保育所や施設で最後の実習を終えました。そして、9月末まで夏休みです。夏休みではありますが、就職活動や就職試験に向けて、努力の毎日です。

9月…静かな短大に、小さなさくらっこの子どもたちの声が聞こえてきます。お盆の帰省のこと、この夏の初めての体験など、親同士もおしゃべりしながら、ゆったりした時間を小さなさくらっことでお過ごしてください。

今月も、どうぞよろしくお願ひいたします。

文責 奥田美由紀

7月の広場より

今年の夏の水遊び♪



シヨベルカーでひとしきり遊んだ後、お母さんに誘われてプールのところに行ったYくん(2歳)。プールとたらいに金魚を浮かべていたら、桶ですくってたらいに集め始めました。はじめは1匹でしたが、次第に2匹、3匹をまとめてすくってプールからたらいまで落とさないように慎重に運んでいました。手に持つ道具もおたまや砂場セットの網などに持ち替えて、難しいのに挑戦しています。学生は、魚が泳いでいるように見せようと、プールの水をぐるぐるかき回して流れを作っていました。Yくんは魚を捕まえるのに夢中でした。



Sちゃん(2歳7か月)とHくん(2歳11か月)は、初めての水鉄砲に挑戦! 学生がやっているのをじっと見てから、水鉄砲を手に取り始めました。この「じっと見ている時間」は、脳がたくさんの情報を吸収している時間です。私はこの時の表情が大好きです。この時、誘うような声掛けはせずに、子どもが自ら動き出すまで待ちます。情報を脳に入れた後、ニヤッとして行動を始めます。水鉄砲から勢いよく水が出るのがただただおもしろい! 何度も何度も水を飛ばしていました。

この瞬間、パチリ！



二人で一緒に見ているね



何のお話しているのかしら



お店でたくさん買い物しています



今日はベアルック



ワンワン同士がおしゃべりしてる



つかまり立ちも！



ベンチは気持ちいいね！



そーっと入ってみよう

みんなで一緒に



最後にみんなで一緒に絵本を見ました。他の遊びに夢中だった子ども、耳で聞いています。大好きなだるまさんに目を輝かせていることもいます。

ところで、子ども達は「だるま」を見たことがあるのかしら？ 先日、新白河駅でだるまを見つけたので、買ってきました。

だるまをごろーん、ごろーんとして遊んでみてください。



この日は、長谷川先生が「げんこつやまの たぬきさん」のパネルシアターを見せてくれました。



絵本の時間になるとHくん（2歳11か月）は、大好きな乗り物の絵本を広げます。好きな本を自分のペースでゆっくり見たいよね。

本来、絵本は1対1で読んであげるものですものね。



初めてのプール遊び



今日は、初めてのプール遊びをしようと、お母さんは考えていました。おむつも外して、Sくん(9か月)専用のたらいへ。この表情は「気持ちいい」ということ? 身体が冷えないように、今度はマットの上に座って、お魚をジャブジャブ! だんだんニコニコ顔になってきました。



「そろそろ着替えて、中に入ろうね」
なんともかわいい後姿に、思わず写真を撮ってしまいました。



プール遊びの後は、涼しくなって気持ちよかったね。

梅ジュースのお味はいかが?

梅の季節にみんなで作った梅ジュースが良い色に出来上がりました。早速みんなで味見です。本当においしいジュースになっているのかな? みんな慎重に口をつけています。

Hくん(2歳11か月)とAくん(3歳2か月)は、気に入ったようで、おかわりまでしていました。



Sちゃん(2歳7か月)とYちゃん(2歳7か月)は、すっぱそうな顔ですね。梅はちょっと苦手かな?



皆さん、おうちに持って帰った梅ジュースは、おいしく出来ましたか?

力を合わせて・・・「やったー！」



ミニカーと道路が入っているケースの取っ手にロープを結びつけて、滑り台の上に引っ張りあげようとしているHくん(2歳11か月)。「どうして引っ張れないのだろう・・・」色々と考えている顔をしています。ロープのどこを持ったらよいのか、どこから引っ張ればよいのか試行錯誤しています。お母さんたちも学生たちも注目していて「頑張れ!」の視線を送っていました。

すると、一人の女の子と一緒にロープを持ち始めました。そして一緒に力を合わせて引っ張ります。おもちゃのケースは、ぐんぐん滑り台を登っていき、とうとう頂上に!

保育室中から大きな拍手が湧き起こり、「Hくんすごいね〜」「よく頑張ったね〜」「力持ち!」とたくさんの方が声をかけました。

Hくんの表情から、達成感と自信が伺えました。

本人が自ら挑戦しようとしていることに取り組める環境と、あたたかく見守る大人たちの存在は、子どもの大きな成長には欠かせませんね。

きらきらボトルを作ったよ

どろっとした洗濯糊を水で薄めて、食紅で色をつけました。そこにビーズなどの細かいものを入れて、きらきらボトルを作りました。学校が夏休み中で、小さなさくらっこに遊びに来てくれたMちゃん



(3年生)は、大きなペットボトルで挑戦です！ 数種類の食紅を入れたら「こんな色になっちゃった！」

Aくんは、きらきらボトルを作るより、材料を混ぜたらどうなるか……。いつものように、小さな科学者の実験に夢中です。



異年齢のかかわりの意味

一緒にキーボードを弾き始めたHくん(4歳4か月)とSちゃん(2歳7か月)。しばらくすると、Hくんはショベルカーに乗って、片手にブロックなどを持って走り始めました。



すると、Sちゃんも同じように両手いっぱいにおもちゃを持って、汽車に乗って後ろを追いかけます。

「同じ」が良かったのでしょうかけれど、ショベルカーは1台しかありません。汽車で我慢したのでしょうか。すると、Hくんがずっとショベルカーを降り、Sちゃん

の方を見えています。Sちゃんはニコニコして、ショベルカーに乗りました。

二人の間には「貸して」や「いいよ」という言葉はありません。しかし、目と心でコミュニケーションをとっているのが分かりました。その後、Hくんは汽車に乗って、すがすがしい顔をしていました。子どもは素敵ですね。



「自分の気持ち」と「相手の気持ち」

学生が作った車とガソリンスタンドで遊んでいたMくん(4歳)。車が大好きです。

Hくん(2歳11か月)も車が大好きで、いつも道路をつなげて車を走らせて遊んでいます。

お互い、相手が使っている車が気になるようですが、もじもじしています。気持ちを言葉にするのはなかなか難しいですね。

「あの車が欲しい」

「僕が使っていたのに、取られた」

「貸したくない」

「同じのが好きなんだね」

子ども達の心の中では、たくさんの気持ちや葛藤が繰り広げられています。

Hくんのお母さんは、それを言葉でつないであげながら受け止め、寄り添っています。Mくんのお母さんは、距離を置いて隣の部屋から見ながら何かを話しています。



Mくんが、Hくんのところに来て、何か話そうとしています。いつもは照れて引いてしまうMくんのこの大きな成長に私は感動しました。複雑な気持ちを言葉で伝えるのは本当に難しいものですが、隣で、しっかりとお母さんが支えています。



ここでは、Hくんが消防自動車を二つ握り締めて、自分が欲しい車と取り替えて欲しいとMくんに伝えに来ています。気持ちを建て直して行動したHくんの姿に私は嬉しくなりました。お母さんも隣で支え

ています。

Mくんは、Hくんの申し出に対して、ご希望の車を木製の手押し車に乗せました。言葉はなくても「どうぞ」という空気が漂いました。



Mくんは、消防自動車ではなく、パトカーが欲しかったようで、2台の消防自動車は手押し車に乗せてHくんにお返しし、一番欲しかったパトカーをもらって大満足！

大人が前面に出て仲裁すると、このような貴重な体験の機会を奪ってしまいます。今回は、それぞれが小さな心で一生懸命考えて自分で決めて行動した時間でした。

幼稚園教育要領に「自分らしさを十分に発揮し、次第に仲の良い友達と想いを伝え合いながら、遊びを進められるようになる。その中で、自分の世界を相手と共有したいと願うようになる。そして、イメージや目的を共有し、それを実現しようと、幼児たちが時には自己主張がぶつかり合い、折り合いを付けることを繰り返しながら、工夫したり協力したりする楽しさや充実感を味わうようになっていく」とあります。

この時の、私たち大人の役割は何でしょうか。まずは、自分の気持ちを主張できたことを十分誉めて、受け止めてあげることではないでしょうか。自分の感情を受け止めてもらい、理解してくれる大人がいることは、大きな支えとな

ります。その安心感があって、「相手の気持ちになって考える」ことができるようになります。子どもの心の動きを待ちながら、心が動いたときに大人は寄り添い、支えます。今回、二人のお母さんは、子どもの心の動きを汲み取りながら、後ろからしっかりと支えており、感動しました。子ども達がいつか一人で気持ちを切り替えたり、立て直したりするその日まで、しっかりと支えてあげたいものです。

野外保育の参加者受付中！

別のおたよりでお知らせしております「野外保育」。現在参加者受付中です。先日、スタッフでみちのく自然共生園に下見に伺ってきたところ、当日収穫できるであろう野菜は「さつまいも」だそうです。さつまいもって、土の中で育っていること、子ども達は知っているでしょうか。畑の土の感触を味わいながら、大きな芋を掘り上げる体験をしてみませんか？

日 時：平成28年10月8日（土）雨天決行

詳細は、別紙参照



さつまいもクッキング

野外保育の後は、本学食物栄養専攻の教員による親子クッキングも予定しています。昨年度は「白菜巻き寿司」と「白菜たっぷり餃子」が子ども達に大好評でした。



今年の素材は「さつまいも」です。どんなメニューになるのか、今から楽しみです。

※日程や内容は、保育室内の掲示等でお知らせします。

親をふりまわす子

たとえば、お菓子屋さんやおもちゃ屋さんの前で、だだをこねている子どもというの、たいていは、家でだだをこねられない子どもです。家で望むことを精一杯やっていると、外へ出たときには、親が望むことをよく聞いてくれる子どもになります。それは間違いありません。ところが、家で子どもの望むことをきちんと聞いてあげないと、子どもは外で自分のいうことを聞いてもらおうとする、いうことを聞かせようという行動をしますね。

(中略) 普段の家庭内での育て方が大切でして、子どもの言うことをよく聞いてあげておくことが根本的に大切なことですが、突然、外出先で問題が起きたとか、子どもがだだをこねたというような場合はしかたありませんね。

こういう場合に下手な対応というのは、親も根気がなくなって、あれこれさんざんしかった後で、子どものいうなりに、譲ってしまうということなのです。うんと怒って、頭の一つ二つも叩いたりして、結局は根負けして子どもの言うとおりになってしまった、ものを買ってあげてしまったというようなことです。これではちょっといい方はいかない、むしろ悪い方へいく、叱って譲るとするのが最悪です。

最善は叱らない、譲らないというのがいいと思います。その二つの中間が、とうとう譲ってしまった、こっちが根負けしてしまった、けれども叱らなくてすんだ、これが中ぐらいでしょう。ですから、皆さんは子どもに対して、できるだけ叱らないけれども、譲らない、だめなことはだめと負けないで根気強く、止めるべきものは止めるという気持ちでいるのがいいのです。

「子どもへのまなざし」児童精神科医 佐々木正美 福音館書店より

※続きは、親と子の広場の本棚で・・・

<9月の予定>

2日(金)
6日(火) 休み
9日(金)
13日(火) 休み
16日(金)
20日(火) 休み
23日(金)
27日(火) 休み
30日(金) 休み

<10月の予定>

4日(火)
7日(金)
11日(火)
14日(金)
18日(火) 休み
21日(金) 休み
25日(火)
28日(金)

親と子の広場のご案内

～ 小さな“さくらっこ”～

日時	火・金曜日 10:00～11:30
場所	ミリアム館1階 保育室
年齢	0歳～就園前
参加料	無料
登録料 (保険料)	子ども一人当たり 300円(年1回) ※おうちの方と一緒に参加してください
持ち物	特にありません ※日常、お出掛けの時に持参する飲み物や 着替えなど、必要と思われるものを各自で ご用意ください
担当	奥田美由紀 長谷川美香 ※学生も勉強のため参加します。

桜の聖母短期大学

📍福島市花園町3-6 ☎ 024-534-7137 (代表)